東山曉かぐす 全

特別
へ13
4312
1

米の無時の飽沢の風流も。獨身のうハ降のがべ。おとろえんこそ。
身とりてそ。の女郎花と愛せんと。依形胡蘆を画くよりこそ。
彫蟲小技の元手業翼なくして飛ものくらん作者とうくるの枝を連て
兄弟ど。稗史よ虚名とひさぐること。繁女ど池猫。羅式ど痴兒嘆息死よ
おつげ。こそ。扇よ天秤棒のおどりを解さど。曾よ点一丘猫ど財布ど
りの由良殿の化住居風雅でそう編述でそう。さしよりの米櫃ど
今年も例の板元らしの初烏しりらんの惟沢
不精かゆらして豆腐ども腹稿の
浦里ど娘よりの肯次郎ど婚
立賣の新居涼仙書屋の恵

壬申陬月

識

右四図依叙言
之故事 全
園山

薄の花や
繪ごよみ
春子

○漂客豊郎
実ハ望月判官
蹴鞠の上手
桂之助蹴秋
○津の国神崎乃里
加賀屋の大夫浦里
実ハ花園楠太夫
春時娘櫻戸
○浪人立髪の助松
実ハ花園乃家臣
牛谷二郎黒氏

巻之一
おひるさがりのあそび
奥の久人種様

京山
春

巻之三
青物
黒きやうるぶや

犬の用心